

平成27年度 中国ブロッククラブネットワークアクション2015

開催報告

日時：[第1日目] 平成27年11月7日（土） 13:00～17:00

[第2日目] 平成27年11月8日（日） 9:00～12:00

会場：広島国際会議場

内容：

[1日目]

- ①開会行事
- ②講演 「人と人 地域と地域をつなぐまちづくり」
- ③グループワーク 「地域と地域をつなぐ役割」

[2日目]

- ①講演 「障がい者スポーツについて」
- ②グループワーク 「障がい者スポーツについて」
- ③日本体育協会からの情報提供、閉会行事

【概要】

6月に開催された実行委員会において、過去3年の中国ブロッククラブネットワークアクションは、異業種分野でありながら地域密着で頑張っておられる方をお招きしたので、今回は「それを踏まえ、どのように異業種分野と繋がるか」という方向性で進めることにし、1日目のテーマを「人と人 地域と地域をつなぐまちづくり」に決定しました。

法人格を有している総合型地域スポーツクラブの中には、スポーツ施設の管理を自治体から受託しているケースがあります。当然、スポーツ施設の利用は健常者だけでなく障がいを持った方も利用されることから、障がい者スポーツのことを知り、理解する必要があります。総合型地域スポーツクラブが障がい者スポーツへの取組を行うことは、1日目のテーマでもある「人と人 地域と地域をつなぐまちづくり」に繋がるため、2日目のテーマを「障がい者スポーツについて」に決定しました。

当日は、それぞれのテーマで講演していただきました。講演後、グループワークを行い、個々に意見や感想を述べることで、お互いの理解を深めました。グループワーク後は、グループごとに発表を行い、参加者全員でそれぞれの意見や感想を共有しました。

[1日目]

【基調講演について】

「人と人 地域と地域をつなぐまちづくり」をテーマに、浜田靖彦氏（一般社団法人元気なまち協創日本 代表理事）をお招きして、基調講演を行っていただきました。浜田氏は、「つなぐ」とは、「ミッション→コンセンサス→コラボレーション→エンパワーメント」であり、「人と人、地域と地域を上手につなぐと元気になってくる。共に働いたり、協力したりすることで、夢や希望が生まれ、生きる力が湧き出してくる。」と定義されました。



具体的に浜田氏が関わった事例として、サロン活動の紹介がありました。サロン活動の内容は多様で、料理教室、カヌー体験、自転車大会などが映像とともに説明されました。サロン活動を成功させるポイントは、①おいしい料理とお酒を用意する、②よいゲストを探してくる、③場に色をつけない、④世話人グループを作る の4点で、特に世話人グループを作るのが重要であると話されました。人はそれぞれ得意分野や興味があることが違うので、サロンの内容によって、世話人になったり、参加者になったりしながら、サロンを運営されているということでした。性別、職業、役職にこだわらず、交流するサロン活動のお話は、総合型クラブの活動の人脈づくりなどの参考になりました。

【グループワークについて】

浜田氏の基調講演を受けて、「地域と地域をつなぐ役割」をテーマにグループワークを行いました。全体のコーディネートは浜田氏が行い、各グループの進行は、各県の実行委員が行いました。浜田氏から「自分が所属する総合型地域スポーツクラブのミッションは何か」について、グループでディスカッションするように説明がありました。「ミッション」を「課題」や「目標」として捉えているグループがありましたが、浜田氏が「ミッションとは、みなさんが総合型地域スポーツクラブを立ち上げようと思った時の気持ちであり、その時の使命感ですよ。」とアドバイスされ、改めてミッションについて、グループワークが行われました。浜田氏は、「総合型地域スポーツクラブのミッションは、各クラブ多少は異なりますが、本質的には一つになる」と話されました。まとめでは、米谷副実行委員長が本日のグループワークを通して、見知らぬ地で仲良くなった人たちと総合型地域スポーツを立ち上げたときのワクワク感を思い出したことや、現在、設立当時の子どもたちが世話人として参加してくれる喜びについて話されました。



[2日目]

【障がい者スポーツについて】

テーマ「障がい者スポーツについて」をテーマに、坂光徹彦氏（アフィーレ広島代表）をお招きして、講演を行っていただきました。

現在、坂光氏は理学療法士として広島大学病院スポーツ医科学センターにおいて勤務しています。前勤務先の東京大学附属病院在任中にアンプティサッカーチームに携わり、選手から多くの感動をもらいました。広島においても、「あの感動をみんなに広げたい」という思いからアンプティサッカーチームの設立を決意され、メンバーがいない状況でのプレスリリース、スポンサー集め、練習場の確保等、設立までの流れについて話されました。設立までに色々なところでアピールした結果、趣旨に賛同していただいた方々から、練習場として小学校の跡地の提供があったことや、女子大学生チームとの練習試合やサンフレッチェ広島の協力等、色々な人とつながることの重要性について説明がありました。



【グループワークについて】

坂光氏の講演を受けて、「障がい者スポーツについて」をテーマにグループワークを行いました。全体のコーディネイトは浜田氏が行い、各グループの進行は、各県の実行委員が行いました。浜田氏から「坂光さんのアンプティサッカーチームをはじめ、障がい者と一緒にできること」について、グループでディスカッションするように説明がありました。各グループからは、自分のクラブで主催しているサッカー大会やグランドゴルフ大会に参加してもらうことや、これからは障がいを持った方も参加しやすいイベントを企画したいといった意見が出されました。



【まとめ】

今回のクラブネットワークアクションを通して、日頃は目の前の業務に追われ、振り返ることのなかった「そもそも総合型地域スポーツクラブを立ち上げようと思ったときの気持ちや使命感」を各クラブが集まって振り返ることができたのは、これからの活動にとってもプラスになるよい機会であったと思います。

また、最初から出来ないと思って諦めてしまうと、何も進まないのです、とりあえず行動することの大切さをこの2日間を通して改めて感じました。

中国ブロッククラブネットワークアクション 2015
実行委員長 関口 昌和